ふかまちのまど

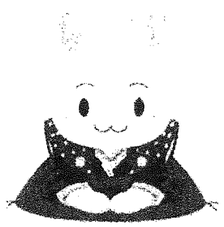
第三四三号 二〇二一年 一月一日
発行元 深町連合町内会
連絡先 ☎六三一-三九二二

連合町内会だより

新年のご挨拶

深町連合町内会
会長　天木　雅之

新年あけましておめでとうございます。



深町・町内の皆様には輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

謹んでお慶び申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、連合町内会の活動は思うように出来ませんでした。

町内の皆様におかれましては、感染対策を十分にしていただき感染されないように注意して下さい。

昨年一月より社会福祉協議会の皆様のご指導によりサロン深っかふかの活動が始まり早一年がすぎました。参加されている皆様と、ご協力いただいている皆様により、大変活発になっていると思います。又、反面課題もあるようです。ぜひ町内の皆様の叡知を結集して地域の活性化にご協力をお願い致します。

今年こそコロナを克服して、制限のない活動を目指しましょう。

▲▲

【深小だより】

新年を迎えて
～今年もよろしくお願いいたします～

深小学校長
坂井　美由紀

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、地域や保護者の皆様から深小学校に対して、たくさんの温かいお力添えをいただきましたことを心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

この二学期を振り返ってみますと、感染症対策をしながら教育活動を進める中で、地域ならではの教育資源を活用した学びができましたことに感謝申しあげます。

一・二年生は、「サロン深っかふか」を訪問し、見学したりクイズや体操をしたりして、交流しました。子どもたちは、身の回りに自分の生活を広げ豊かにする場所があることを知るとともに、地域の方にたくさん声をかけてもらい、身近な人と関わるよさや楽しさを感じていました。

その後も、折り紙やフェルトで作った作品を児童が届ける活動を行う等、交流を進めています。

四年生は、深町の魅力を伝えるために、自分たちにできることは何だろうということから始めました。桃・柿・ぶどうの農園見学・お菓子工房の見学、藤井川の水質検査・・・たくさんの地域の方やものと触れ合う体験活動を通して、学びを深めていく中で、地域のよさや温かさを実感しています。

五・六年生は、工場や農園見学をしたり、ゲストティーチャーとして来ていただいたりしてお話をきかせていただきました。様々な職業に携わる人との関りを通して、職業に対する視野を広げたり、働く人の思いや生き方にふれたりして、自分のこれからの生き方や地域貢献について考え、課題解決に向けて取り組んでいるところです。

このように、生活科や総合的な学習の時間において、具体的な活動や体験、探究的な学習を進めるにあたり、子どもたちのがんばりはもちろんですが、地域や保護者の皆様にご支援やご協力いただく中で、豊かな教育活動を推進することができていると実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も深町にある温かい風土の中で、子どもたちの力がされに伸びていくよう、教職員で力を合わせて前進していきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

▲▲

「ふかまちのまど」ホームページのアドレスは
http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html

中組町内会だより

ゴミ拾いウォーク御礼

深町中組町内会
会長　安藤　志保

環境・健康・親睦をテーマにしたゴミ拾いウォークを、昨年度に続き、11月最後の日曜日に行いました。ご参加くださった皆様、大変ありがとうございました。

参加者10名で、昨年度の3分の1の人数でしたが、今回は「ふかまちのまど」や町内放送・ラインでのお知らせをせず、回覧のみだったため、もしかしたら「知らなかった」「忘れていた」という方もおられるかもしれません。

また、ゴミのほうも、昨年度よりかなり少なく、こちらは嬉しい減少です。可燃ごみは昨年度比1割減、不燃ごみは昨年度比7割減という状況でした。様々な形で、町内の美化に貢献してくださる皆様に感謝申し上げます。

やはり気になるのは、昨今話題のプラスチックです。ポイ捨てされたペットボトルや食べ物の包装、フワフワ飛ぶレジ袋は、新しいものもあれば、劣化して細かくなったり土に埋れたようなものもあります。これらの多くが、風に飛ばされたり、大雨で流れたりして、水路から川へ、川から海へと流れ込み、問題の「海洋プラスチック」となってしまいます。ポイ捨ては論外ですが、大切な海や魚、まわりまわって人の健康にも悪影響を与える「海洋プラスチック」を増やさないよう、深町から取り組んでいけることを願っています。

また、「三原市健康づくり地域活動」の一環として、ウォークの前に握力を計ったり、体操も行いました。握力の大幅ダウンに驚いている方もおられましたが、自分の体力・体調を客観的に認識することも大切だと感じました。

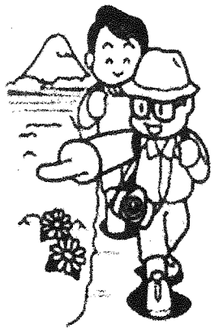
特別に大変な事業ではないので、来年度も継続の提案をさせていただきたいと考えています。皆様のご理解・ご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

▲▲

歩く会にご参加を

歩く会幹事
石井　堂熙

竹原市忠海町
忠海駅北側



月　日　一月十七日（火）
予備日　十九日（木）
行程
九時〇〇分　深町上組公民館発
十時〇〇分　勝運寺・本立寺～八幡神社～観音滝を探訪
十二時〇〇分　探訪終了　昼食
十三時三〇分　深町上組公民館着（車）

▲▲

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましょう。

深小の子供は

○午後三時過ぎに下校します。
※下校時間は日によって異なることがあります。
○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。
○あいさつ声かけをしましょう。

深町各種団体一月行事予定

◆小学校
▼始業式　一〇日
▼スクールカウンセラー　一二日
▼委員会活動　一六日
▼OpenDay（ふれあい参観日）　二二日
◆如水館中学・高校
▼始業式　七日
▼身だしなみチェック　十～一六日
▼共通テスト（高）　一四・一五日
▼高校入試　一八日
▼高三最終登校日　二〇日
英検
▼国公立二次出願保護者会　二一・二二日

▲▲

橋本様
全日本第二位おめでとう

深町連合町内会
会長　天木　雅之

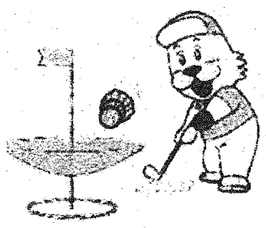
中組峠講の坂本優和様が、全日本自転車競技選手権BMXレーシングで栄えある2位となられました。

心よりお慶び申し上げますとともに、益々のご活躍を祈念申し上げます。

▲▲

TBG協会だより

三原市・月例ターゲット・バードゴルフ大会



三原市TBG月例大会が、十二月十七日（土）に十六名の参加で深町・城山コースにて行われました。

成績は、次の通りです。

一位　三崎　卓夫
二位　井上キヨコ
三位　井上　幸子
ベスグロ　六十六　三崎　卓夫

※選手の敬称略

次回の月例大会は、一月二十一日（土）に、行います。

TBG協会
会長　船本　雄三

▲▲

サロン深っかふかだより

代表　安藤　志保

新年　あけまして　おめでとうございます。

２０２２年４月６日に始まったサロン深っかふかは、毎週水曜日の活動を続け、昨年39回のサロンで集った人の数は、のべ５００人以上となりました。暑い日・寒い日・雨の日も参加してくださったみなさん、様々な形で応援してくださるみなさんに感謝申し上げます。そして、悩みながら一緒にがんばっている協力者お互いに、お礼を述べ合いたいと思います。

サロン深っかふかで毎回行う「いきいき百歳体操」は、「立ち上がりやすく、転びにくくなる運動」「ものを持ったり、起き上がるのが楽になる運動」など、日常生活を元気に過ごすためのポイントが盛り込まれた体操です。続けることで、じわじわと効果が表れてくるものと思います。

体操の後は、年間を通じて様々な活動を行ってきましたが、人気は「ボッチャ」「チームで競うゲーム」「歌」というところでしょうか。ボッチャや対戦ゲームは、楽しみながら真剣勝負で、ほど良い集中力や緊張が刺激になりつつ、ワーッと歓声や拍手が起きたりします。歌は、声を出す解放感や、みんなで声と心を合わせて一つになるのが醍醐味でしょうか。

始めの頃は、「来ても知っている人がいない」と言われていた方も、だんだんと顔見知りになり、おしゃべりが増え、全体的に和気あいあいとした雰囲気のサロンです。しばらくお休みだった方が久しぶりに来られると、「久しぶり！元気？」と声を掛け合ったりしています。これから「初めて」の方も、ぜひぜひご参加いただけたらと思います。

参加者さんにサロンの「良いところ」をあげてもらったところ、

- 楽しい
- 出会いがある
- 家から出る
- 行く場所がある
- 体を動かす
- 老化防止になる
- 医者もすすめる
- 声を出す
- みんなで歌う
- カンタンなゲームができる
- いろんな遊びができる

などでした。今後も、みんなで「良いところ」を増やしていけるとよいな！と思います。

２０２３年が、みなさまにとって幸多き一年となりますように！

「ちょっとだったら手伝えるかも」「深町でやってみたいことがある」などの協力者さんの出現も、大歓迎で待ち望んでおります。

1月の予定

水曜日10時～11時30分
・4日・11日・18日・25日

持ってくるもの
・飲み物・室内シューズ
・長いタオル（体操に使います）

インスタグラム
https://www.instagram.com/fukamachi.ochanoma/

問い合わせ先（安藤）
０９０-５２６５-３８５５

お役立ち情報

（インターネットより）

お正月とはこんな行事

お正月は、一年間の幸せをもたらすためにやってくる、年神様（としがみさま）を家族みんなでお迎えする行事です。

年神様は健康をもたらし、子孫繁栄や五穀豊穣を授けてくれる神様だと言われています。

お正月の由来とは？

日本においてもっとも古い行事とされているお正月は、まだたくさんの謎があり由来については諸説あります。

一説によると6世紀半ばにはすでに存在しているとも言われ、農耕の神様とご先祖様への信仰が合わさって、家を守る神様が誕生されたと考えられています。

昔の日本人が年の初めに年神様をお迎えしておもてなしをし、家の幸福と繁栄をいただこうとした行動が、お正月の由来とされています。

お正月の期間は？

お正月とは、一年の一番初めの月のことを言います。

特に元旦から7日（地域によっては15日程度まで）の期間がお正月と認識されています。

「あけましておめでとうございます」の意味は？

お正月ならではの「あけましておめでとうございます」という言葉は、年の初めに神様が家に来るのは大変めでたいことだ、ということでそのような言葉になったと言われています。

門松の意味

門松は年神様が探しやすいように家の目印として置く、という意味がありました。

門松は繁殖力が強く永遠性や生命力を感じることができるため、縁起がいい植物として選ばれたと言われています。

「子どもに説明する場合」

神様が1年に1回おうちに来て、今年もみんなが元気いっぱい過ごせるように願ってくれるんだよ。でも、どのお家に行ったらいいか神様が迷っちゃうから、目印になるように門松を置くんだ。こうしておけば〇〇ちゃんのお家だ！って分かるからね。

しめ縄の意味

しめ縄は、結界を張って厄除けをするためのものという意味があります。

神様の世界と現世を隔てる境界の役割を果たしていて、お正月にしめ縄を飾ることで年神様が安心して現世に降臨できる神域を作り、お迎えするという意味で飾られています。

「子どもに説明する場合」

みんながお腹いっぱい美味しいご飯を食べられるようにと、年神様という神様がお家にきて願ってくれるのだけど、そのときに悪い人や邪魔が入らないように、この縄でバリアを作っているんだよ。神様が安心して過ごせる空間を作るためにバリアを張っているんだね。

鏡餅の意味

鏡餅は神様のお供えでもあり、神様が宿るものとしての意味もあります。

古くからお米には一粒一粒に神様が宿っていると信じられてきました。今でも「お茶碗にお米一粒でも残さずに食べなさい」と言われてきたのには、お米一粒一粒に神様が宿っているため粗末にしてはならないという意味が込められていたためです。

神様が宿っている米粒を固めて作る鏡餅は、さらに強い神様の力が宿る神聖な食べ物と考えられてきました。

鏡開きには、お正月が過ぎ年神様をお見送りした後にみんなで食べて、神様の力をいただく、という意味があります。

「子どもに説明する場合」

神様や、おじいちゃんのおじいちゃんたちなどご先祖様に「昨年はありがとうございました。今年もみんなが楽しく幸せに暮らせるように。お腹一杯ご飯が食べられますように」とお願いして、見守ってもらうために鏡餅をお供えするんだよ。お正月の間は神様が鏡餅に宿って、いつもより近くでみんなのことを見守ってくれているんだよ。

お正月飾りはいつから飾る？

お正月飾りは、正月始めと言われる12月13日以降なら、いつ飾り始めても良いとされています。とはいえ、クリスマス真っ盛りの時期にお正月飾りをつける家庭はほとんど見かけないため、クリスマスが過ぎた12月26日以降に飾ることが一般的でしょう。又、12月29日は9の数字が苦を連想させることから「苦が二重になる」という意味があるとされ、12月31日は「一夜限り」が葬儀を連想させることから、飾り始めにふさわしくない日とされています。

そのため正月飾りは12月28日までに済ませるか、12月30日におこなうのがベストです。

お正月飾りはいつしまう？

松の内が過ぎたときに、お正月飾りはしまうとされています。

松の内の期間は地域によって異なり、関西地方では1月15日まで、東北・関東・九州などは1月7日までといわれています。

どちらにせよ1月15日までに片付け、焚き上げにもっていくか、塩をまいてお清めをしてから処分します。

年神様をもてなし、お祝いをするためにさまざまな正月行事が生まれました。行事は馴染み深いものばかりですが、どんな意味が込められているか案外しらないのではないでしょうか。

行事の意味を知れば、より心を込めて行えるようになりますよ。

年賀状

お世話になった方やなかなか会えない方などへ、年賀はがきに新年の挨拶を書いて送るものを年賀状といいます。

新年の挨拶の後には、近況を伝える言葉を添えたり、写真で現在の状況を伝えたりするなど、それぞれ好きなように想いを綴ります。

干支の絵を描いたり、手作りスタンプを押したり、絵を描いたりなど、表現方法は多様です。

滅多に会えない方やＳＮＳを使用していない方へなど、こちらの近況を伝えたり知ったりする大事な手段でもあるため、年賀状はとても貴重なお正月の行事ともいえます。

年賀状は松の内までに届くように出しますが、松の内が過ぎてしまうようであれば、寒中見舞いとして出すのが一般的です。

おせち

お正月に迎え入れる年神様におもてなしの一つとして、お供え料理を作ったものがおせち料理です。

神様にお供えすると同時に一緒に食べることで、神様の恩恵を受けるとされてきました。

おせち料理の一つひとつには縁起があり、例えば福を重ねるという意味でお重に詰めるなど、いろいろな意味が込められています。

他にも日持ちする料理に仕上げることで、年神様を家事のバタバタに巻き込まない、台所の神様に正月ぐらいはゆっくりと休んでもらいたい、という意味もあるとされています。

お正月という行事には、さまざまな由来があり願いが込められています。